

わが社のPolicy



株式会社マルツ電波
代表取締役社長 土谷 秀靖さん

当社は昭和22年に創業、私で3代目になります。全国に40カ所以上、香港にも1カ所の拠点を持っています。初代の頃から、新しいことに挑戦するのが好きな社風で、仙台や静岡などにも関連会社を作っていました。そのネットワークもあって、電気機器の知識・技術を活かせるハードオフなどの事業を展開。また海外進出を視野に入れ、現在、海外研修生を受け入れています。社歴約70年の間には、事業のスクラップ&ビルドにも果敢に挑戦してきました。わが社が求めるのは、一緒に挑戦し、新たな伝統を作っていく、意欲ある人材。期待を裏切らない確かな技術を提供しようで、想像を裏切るアイデアを提案しましょう。

株式会社マルツ電波

本社：福井市豊島2-7-4
設立：1972年9月
代表者：代表取締役社長 土谷 秀靖
事業内容：電気通信設備の設置・保守管理、
新エネルギーシステムの設計・施工、
OA機器の販売等
資本金：2,000万円
従業員：276名
☎0776-22-0464



<http://www.marutsu-group.jp>



「総務は会社運営の要。各部署の労務管理や、上がってくるデータを正確に集計し、素早く資料を作成します。社員が頑張ってる姿や環境づくりも重要で、社員旅行は今年、仕事の形態や個人の状況に合わせて選べるよう、15コースを設定しました。会社を支えるやりがいのある仕事です」(総務部 齊藤誠哉さん)

「公共工事を主に担当していて、お客様とのやりとりを現場に伝えるのが主な業務です。仕事がスムーズに運ぶよう、わかりやすい説明をするように心がけています。最近、お客様とのこうした会話がとても楽しくて、もっといろいろな要望や意見を話してもらえようという信頼関係を築いていければと頑張っています」(特機部 下迫吉史さん)

Q 先輩方、仕事のやりがいは何ですか？

会社は元々、家電販売を主な業務にしていましたが、次代の流れを見据え、次に求められるものは何かを模索してきた結果が、現在の事業展開です。こうした判断の際に大切なのは、綿密なデータ。総務部は各所から上がってくる情報を取りまとめる、重要な役割を担っています。

チャレンジ精神は、社員の積極的な資格取得にも表れているかもしれません。技術職以外の社員も、業務に役立つ何らかの資格取得を目指しており、合格者には、会社から奨励金も支給されています。

Q 先進的な分野に挑戦しているんですね

例えば道路や河川などのポイントにセンサーをつけて雨や風、水量、カメラによる画像を国交省の事務所に送ります。これらのデータをもとに災害に関する情報が住民に配信され、防災に役立っているのです。市町の防災設備やトンネル内での照明、ラジオ放送での災害・交通情報提供のための機器も扱っています。また新エネルギー事業は、早くから太陽光発電に取り組んできました。さらに平成26年より、あわら市と坂井市で木質バイオマスエネルギーの事業化に取り組んでいます。

Q 特機部の仕事について、わかりやすく教えてください

大きく分けて、「販売部」「特機部」「総務部」があります。販売部の中で、「携帯課」はドコモショップを運営、「ハードオフ課」はハードオフ・オフハウスを、「ブックオフ課」はブックオフをそれぞれ運営。店舗は県内だけでなく、県外にも広がっています。「特機部」は、無線技術を使った防災情報システムを提供しており、さらに太陽光発電や木質バイオマスなどの新エネルギー事業も手掛けています。

Q 業務内容を教えてください

福井大学
松井詩歩さん



株式会社マルツ電波

きらり★企業20選

無線をベースに多方面から地域に貢献。信用と技術が新たな挑戦を生む。



マルツ電波の
ココがすごい!

① ネット販売

電気機器などの部品をネットで販売。現在も売り上げは順調で、まだまだ伸びしろがある。

② 海外進出も予定

現在フィリピンなどから海外研修生を受け入れ中。この数年のうちに海外への事業展開を予定。

③ 期待のエネルギー事業

太陽光発電にもいち早く着目し、発電施設は県内7カ所。木質バイオマス事業も有望。



取材 Report



時代の変化とともに、事業形態もその変化に合わせていくという考えのもと、現状に満足せず挑戦し続けている印象を受けました。さらに、今までの知識・ノウハウを生かした新事業に着手しており、自社の強みを生かしながら新たな分野へ参入していく、常に進歩を求め企業でもあると感じました。専門的な知識だけでなく、お客様とのコミュニケーションも重要な仕事ですが、やりがいもあり、人として成長できる素敵な職場であると思えました。

